

# 高山市街地における秋葉神社（秋葉様）の立地を中心とする考察

## —現代都市の中の秋葉様—

内田研究室 太田晴子

**研究概要：**高山市の市街地には今でも歴史的雰囲気を残す町並みが残っており日々、たくさんの観光客で賑わっている。そんな町の中を歩くと至る所に立石の上に乗った小さな神棚ほどの小祠や灯籠がある。これらは正式名称を秋葉神社と言ひ、火防の神様として知られているがまちの人々は親しみを込めて「秋葉様」と呼んでいる。秋葉様は火事に怯えることが無くなった現代においても高山の人々に大切にされているのはなぜか。本研究では立地を中心として研究を行った。

**研究目的：**本研究では、建築形式による分類・祭礼調査・立地の特色の分類から、この秋葉様が現代において都市の中でどのような要素を持って立地しているのかを明らかにすることを目的とする。

### 秋葉様の分類

社殿を建築形式別によると、一番多いのが62件中53件である神明造のものであり、流造のものが2件、それに続いて石製灯籠のものが3件、木製灯籠のものが1件ある。また、これらのどれにも分類出来ないものが3件ある。これより、社殿の形式は大多数が神明造であることがわかる。



神明造の秋葉様



流造の秋葉様



石製灯籠の秋葉様



木製灯籠の秋葉様



祭礼の様子

### 秋葉様の祭礼

秋葉様は管理する地区の人々によって祭礼が行われる。様相は地区によって多少異なるが、年三回、正月五月九月に行う。祭礼の際には秋葉様にお供えものをし、そしてその地区担当の神社の宮司さんと呼び祝詞をあげてもらふ。全部で二時間ほどの出来事だが、人々が集まっている様子を見ると、現在でも秋葉様を大切にしていることがわかる。

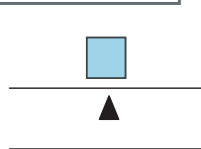


祭礼時の秋葉様

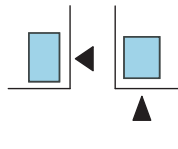
### 秋葉様の立地に関する考察

立地の特色を分類すると、最も多いのは、道路に向けて正面があるものであり、62件中52件もの秋葉様が当てはまる。道路は人々が毎日利用するものであり、祭礼の際に利用する地区もある。これより常に認識出来る立地を意識したと考えられる。

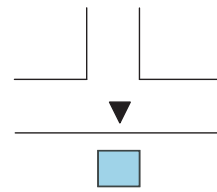
#### 主な立地の特色



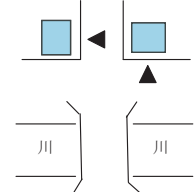
道路に向けて正面がある  
(20件/62)



道路と角地にある  
(11件/62)



道路と突き当たりにある  
(6件/62)



道路と角地と川沿い橋詰  
(6件/62)

**苦勞した点、感想など：**1つ1つの規模が小さいですが、調査エリア内には62件もの秋葉様があります。限られた調査期間の中で実測調査などを行うことは、とても困難と一緒に調査を行ってくれた仲間にはとても感謝しています。また、大切にしている秋葉様を調査させてくれた高山の方々にも感謝の気持ちでいっぱいですが、しかし、本研究が秋葉様の全てではありません。今後更なる研究が行われ、秋葉様の価値が認められ、末永く大切にされていくことを望みます。